



## 潤滑剤のような存在について

東北大学環境科学研究科の鈴木先生からバトンを頂きました鶴岡工業高等専門学校の荒船と申します。鈴木先生に初めてお目にかかったのはまだ私が東北大で学生だった頃に行われた分析化学研究室間の交流会だったかと思えます。私が鶴岡高専に移ってからは、文科省先導の GRENE プロジェクトで人材教育の一環として行った高専学生のインターンシップでもお世話になりました。インターンシップでの訪問をお願いしたところ快くお引き受け頂き、学生共々勉強させて頂きました。

さて、この原稿を執筆している4月現在、鶴岡では桜が満開で見所の時期です。特に花見所としては全国有数の鶴岡公園の風景は壮観の一言です。この時期に近くにお越しの方は一度立ち寄られてみては如何でしょうか。思い返せば高校時代、関東に住んでいた頃は桜を見て卒業を連想していましたが、東北に移り住んでからはどちらかという新生活を連想するようになりました。同じ桜を見ながらまったく逆のイメージが想起されるのは四季豊かな日本の土地柄の違いとして面白い点の一つだと思えます。

新生活といえば桜の開花に先立ち新学期も始まり、高専では就活に勤しむ学生が散見されます。高専自体については2016年2号で阿南高専の山田先生が簡単にご紹介されていましたが、ここでは大学と高専の就活の違いについてご紹介したいと思います。まず大学生または院生の場合は候補となる企業数社あるいは数十社にエントリーし、大学からの推薦も含めて複数企業を品定めしながら同時進行で進めていく方が多いかと思えます。一方、高専の場合は推薦が基本的で、エントリーできる企業は1社のみでその間は他の企業にエントリーすることができず、また採用された場合は基本的に断らずにその企業に就職することになっています。勝手に前者はショットガン式、後者はスナイパーライフル式と表現しています。高専の場合、いわば「高専枠」での採用となることが多いため競争相手が比較的少なく、大企業への就職もしやすいことがメリットと言えるでしょう。一方、志望している企業の合否が決まらないうちは動きようがなく、保険なしの一発勝負の繰り返しとなる点は、デメリットと言えるかもしれません。希望する進路先に決まるのが何よりですが、第一志望から外れても塞翁が馬としてめげずに次の候補に向かってほしいところです。

そういえば就活あるあるとして自己PRに「私は研究室内で（あるいはサークル、バイト先で）潤滑剤のような存在です」という表現があるようです。実際にこの

台詞を言った人を見たことはありませんが、「自分は仕事あるいは人間関係の摩擦を減らしてスムーズに物事が運ぶように動けます」という表現だと思えます。穿ってみれば、「自分は企業の歯車自体にはならんぞ」という遠回しな意思表現かもしれません。低摩擦材料の研究に携わっている者としては詳しく突っ込みたくなるどころです。

潤滑剤と一口に言っても、様々な種類の潤滑剤があります。ご家庭のフライパンでおなじみのテフロンは固体潤滑剤で、その中でも自己潤滑性材料に分類されます。テフロンやグラファイトなどはコーティング面が相手材と擦られるうちにコーティングの一部が相手材表面に移着します。これにより相手面もコーティングされることで摩擦が低減することから自己潤滑性材料と呼ばれています。これを人材に置き換えると切磋琢磨しながらも徐々に相手に自分の考えを納得させていき、物事が円滑に運ぶよう努める、献身的なエースとも言えます。一步間違えると自己犠牲を続けて搾取される人となるので、前者を目指したいところです。

似たようで異なる材料として極圧剤というものがあります。これは擦られることによって基材と化学反応して低摩擦性の保護被膜を形成する添加剤で、ジアルキルリン酸亜鉛などが例としてあげられます。読んで字のごとく高温や高圧といった過酷な環境下で運用され、また自らを変化させながら潤滑を保つ役割を担うので、タフさや臨機応変さをアピールできるかもしれません。潤滑剤のような存在、という表現自体が既に陳腐化しているかもしれませんが、就活で使う予定の方はもう一步、潤滑剤の中身に踏み込んでみては如何でしょうか。なおこの文章は夏頃に掲載予定ですが、このような戯言に惑わされる就活生がいないことを願うばかりです。

さて次回エッセイのバトンですが、いわき市総合政策部除染対策課の鈴木慎太郎氏にお願いいたしました。氏は東北大の分析化学研究室に在籍していた頃の先輩で、考えてみると研究室で一緒だった期間は半年程度だったにもかかわらず、今でも交流が続いています。先日もいわきからはるばる鶴岡までお越し頂き、楽しくお酒が飲めました。濁り酒ならぬお茶を濁した本稿ですが、鈴木氏からはちゃんとした分析のお話が聞けるかと思えます。大変お忙しいところ、お引き受け頂きありがとうございます。

〔鶴岡工業高等専門学校 荒船博之〕